
イイワケ

山田ぽぽろ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

イイワケ

【Nコード】

N5112L

【作者名】

山田ぼぼろ

【あらすじ】

それは、負け犬の遠吠え。

問うても貴方は答えない。廻る迷路の腐肉の上で、積み木遊びに夢中だから。

妾の声に貴方を貫く力は存在しないから、少しだけ寂しいの。だからもう少しだけ白い糸を濁った空にひたしておこう。もしかしたら、紅く綺麗に貴方と妾を繋いでくれるかも。

醜い希望は、酷く絶望と似ているけれど、目を瞑れば視えないから気にしない。

「大丈夫？」と言われたら、「大丈夫」と還そう。
希薄な言葉に縋る妾を無様と嗤う影法師は、明後日、沈めてしまおう。

罪と罰とを間違える、逢魔ヶ時に、出会った兔の名前は何だっけ。

「随分と壊れてきましたね。重畳で御座います」

有り難う。死んでしまえ。

喪う事が怖いのに、その首を絞めてしまう親指の力は不安定。
愛してる、とその形良い唇が紡いでくれるなら、一片の涙をあげよ
う。

後悔と慟哭は、サアビスでつけといてあげよう。優しい妾。

嘘なんて野暮なモノで、モノクロ世界を塗り潰せると、本気で貴方は信じていたの？

「諦めるのですか。諦めるのですか。素晴らしい事で御座います」

お前も道連れだ、畜生め。

本当よ。現実よ。この眼球に映る貴方を哀して穢して愛していたの。ただと妾は、泣き虫やさんだから、いい加減弱音を吐いてもいいよね？

日々は崩れた万華鏡のように儚かったけれど、それでももう十分です。

「しんがしんが」

大好きを孕んだ殺意のキスを、白い貴方の首筋に捧げましょう。
これで、ずっと一緒だわ。

でもそれは、敗けたもののただの言いわけ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5112/>

イイワケ

2010年12月31日05時00分発行